



人妻クノイチNTR
設定案



火野 くれは(28)
B129 W72 H120

シノビの里に所属するクノイチ
同じシノビであり幼馴染みの火野炎斗と
1年前に結婚している。

クノイチの中で戦闘力はトップクラス。
その体を見ると戦闘には向いてないように
見えるが脂肪を筋力に変える忍術を持つ
家系に産まれており、くれはもその
能力を持っている為、昔から
かなりの食いしん坊。(全て胸と尻にいったが)

名家の生まれのため育ちがよく
正義感が強い、夫とイチイチやるのが日課。

乳首は陥没乳首で勃起するとかなり敏感に。
Hな目で見られたりセクハラが大嫌いだ
がそれは敏感で感じやすい体をバレない為のポーズ。
そのせいか房中術は里でも相当不得手な方。

ドウゴ(?)

シノビの里に所属する
新人の下忍
房中術が得意でチンコが
デカイ指先から
神経にチャクラを通し
性感のツボを刺激したり
チンコの形、硬さなど
自在に操ることも可能。

本当は女性を売買してる
犯罪組織の調教師
依頼主の思うような女に
変えてしまえる
最低のシノビ。

火野炎斗(28)

くれはと 同じシノビの里に
所属する 上忍。
戦闘より諜報活動が
メインだが
優秀なシノビ。

今回は新婚の妻と
一緒に任務で
張り切っている……
だが、そこに仕掛けられた
罠に気づいていない。

粗チン。

火野 紅葉(28)

くれはが学園に潜入する際の姿。
国語教師として、人身売買組織の
隠れ蓑とされている学園に
潜入し売買の証拠を探している。

元々、言葉遣いなどに
厳しいくれはは
『ヤバイ』『マジ』などの言葉を
嫌っている。
国語の授業でも生徒に厳しく
言いつけることが多いが
面倒見のよい性格からか
生徒たちからの人気が高い。

男子生徒からは特に人気で
あの凄まじい体を当然のように
自慰行為のオカズに
されまくっている。



私はシノビの里に属する忍者…『火野 炎斗(ひの えんと)』
幼馴染みで1年前、妻となった『火野 くれは』と共に
女性を奴隷売買している組織を追って辿り着いたのが
麗堂(れいどう)学園…この学園のトップたちが
学校を隠れ蓑に奴隷売買をしているという情報をえて
私達二人は三ヶ月前から
教師として潜入していた……

くれはは国語教師として……もとより名家の出身で
言葉遣いなどキレイなくれはには適任だった
マジメさもあって生徒にも慕われることに……
ただ豊満な肉体の彼女は男子生徒から性対象として
見られることが多く夫としては複雑だ……

クノイチとして育てられたくれは…その肉体から
強さには繋がらない印象があるが脂肪を筋力、膂力に変える
忍術を得意とする家系故その強さは
シノビの里のクノイチでも1、2を争うほどだ

私達は、かなり学園に馴染むことができたが
この三ヶ月……奴隷売買組織に関する情報が全く
掴むことができなかった……
新婚のせいで…しかも偶然二人の任務ということで
正直、二人共うかれていた部分はあったと思う……

そこでシビシを切らしたシノビの里は……



潜入任務3ヶ月と1日目

「ちっす、遅れてスンマセン。くれはセンパイツ
はじめまして、俺が学生潜入を任されたドウゴっす、よろしくー」
「何をしていたの？集合時間から10分以上遅れているわよ？」
「まあまあ…くれは…」
彼はシノビの里が派遣した忍者の一人…
三ヶ月も潜入して全く情報を
得られていないことに痺れを切らした里が送ってきたのだが…
戦闘力はボクらよりも下とのこと…一体何が得意なシノビなのか…
仲間内でも個人情報が漏れることはシノビにとって致命的だから
情報が伏せられているのも仕方ないが……
「まったく……炎斗(イント)さんと
二人きりの任務だったのに…」
「はは、声もれてるよ……」
「はあ…とにがく、これからよろしくお願いま…」

「お願いまーす♡」
ぐにゆうう！
「ひっつ!?!♡♡」
「なっ!?!」

「はあはあ…なっ！何をするんですかあ!!!!!!」
どごんっ!!



「あがが…か、軽いジョークっすよ…ててっ、キレすぎ…
ちょー強いて聞いてたけどマジだったんすね？やべえわ」
「さっきから『マジ』とが『やべえ』とが……
言葉使いがなってないですね！今日から貴方の指導も
任されていますから、その性格ごと矯正してあげます！
覚悟しておくことです!!!」
「ま…まあまあ……
……って指導？何の話？」



「炎斗さん……これから私は彼に任務と……指導をしてこようと思います
シノビの里からの指示でもありますので……
ですから今日の夜は……」
「あ、ああ……大丈夫、夕食も気にしないで
こっちで用意しておくから」
「ありがとうございます♡」
「おお♡いいっすね新婚さん、マジうらやましいわあ
なんかお二人の夜の潜入活動ジャマしちゃって
スンマセーン」
「こっ……こらっ!! そういう話じゃないです!!!」

(なんだかイヤらしい話し方をするヤツだな……
下忍だと聞いてたけど礼儀もなっていない
そこはクレハの教育に期待するしかないか……)

クレハの教育熱心からなのか、これから毎日夜遅くに
帰って来ることになる……クレハ自身変わりがなかったので
気にはしていなかったのだが……
学園の校長を追って夜の繁華街にドウゴと尾行した際……



潜入任務3ヶ月と7日目

「ラブホは行ってイキやがった……ここは
追わないとですね、クレハせんぱいっ」
「んう♡はあはあ♡……ぞ、ぞうね…」

(くれはの様子がおかしい……んっ? コイツ……)
「おいっ! ドウゴ!」



「ん？なんスか？エントさん？」
ぐにつぐにつ

「何って……これはの下半身から手をどける！」
「あ～……でもコレしていると気持ちが落ち着くっていうか……ね？」
「んっ♡…え？…ええ…そうね…んう♡」

（そうね……って何をいってるんだ、くれは！）

「炎斗さん…今は尾行中ですから…静かに…」
「い、いや……だが……」

「この不良少年のイタズラは……はあはあ……♡
いちいち絡んでいたらキリがありません……んっ♡」
「そういうことですよ「へへっ」
「…とは言え……」



「いつまで触ってるのですか！」
「てててっ……スンマセン！ギブギブっ！！」

一見、不良生徒が先生に少しエッチなイタズラをただけ……に
思えるが……彼女は学園の校長にも散々セクハラを
されそうになりその度、侮蔑の眼差しを相手に向けながら
払いのけてきた…のに…

「あっ、校長のヤツ、ラブホに入りましたね…
オレ達も潜入して尻尾つかみまじょう！」
「ぞ…そうね…じゃあ炎斗さんと…」
「いやいや、里からは俺とくれは先輩で、って言われてるっしょ？
エントさんは、ここで待っていてください
ホテルから校長が逃げ出さないか、チェックよろッス！」



ドキッ♡
「えっ!? ちょっと待って……んうう!♡♡」

「んじゃラブホでやんぞ…」
ボソボソッ
「んっ!? そんな…炎斗さん耳がいいのよ?」
「部屋中でやってんだからバレねえって♡」

二人はシノビらしく早着替えをしてラブホに潜入して10分……多くの嬌声が響く中でくれは達の声まで聞き分けるのは不可能だったが……特に低い声で唸る女の声だけはひどく印象に残った……

校長に接触したとのことで、そのまま移動することになり任務は二人に任せ自分は自宅に戻るようシノビの里から指令がきたのは、それから2時間後だった……

潜入任務3ヶ月と20日目

「校長のヤツ……またJK連れ込んでるわ…しかも夜の公園のトイレとか…困ったもんですよね? クレハせんぱいっ…じゃなくて」
「わ、わかってます…今日は後輩JKの『くーちゃん』ですよ♥」
「そうそう♡」
「よろしくお願ひしますっ♡ドウゴせんぱいっ♡」

「……」
学園の校長がJK好きだと言うのは知っている……ハニトラを仕掛けるならJK…というのもわかる…だが、これは……



「く…くれば……里の指令とはいえ……」
「違いますよ炎斗さんっ
今はドウゴさんの後輩彼女『くーちゃん』です♡」
「そうすよ？それともエントさん、コイツじゃこの格好『きっつ』かと思ってます？」
「そ、そういうことじゃなくて……」

「しよ、正直似合ってるとは思いませんが…
がんばりますっ♡」
「くれば……」
「俺は絶対イケると思うぜ、『くーちゃん』なら校長めっちゃ
食いついてくるって…なあ？」
「そう言うと、くれば顔を近づける…
「本当ですか？…んっ！ちよっ…やんっ
今はマジでダメだつてばあ……はあはあ…♡
ドウゴせんば〜いっ♡」
役になりきっているのは、わかっている……つもりだが
当然のように心の中の疑惑のモヤは晴れない

「あっ、校長達トイレに入っていた
それじゃオレ達もバカップル装いながらトイレまで追うぞ」
「あんっ♡マジな話しながら股間に
足イれないでくださいっ…んう♡」
「へへ！カップルなんだかイイだろ？キスしないんだから
コレぐらいよ…それじゃトイレ、イクぞ『くーちゃん』♡」
「…はあはあ♡…はい♡……ドウゴせんばいっ♡」
「く…くれば……」

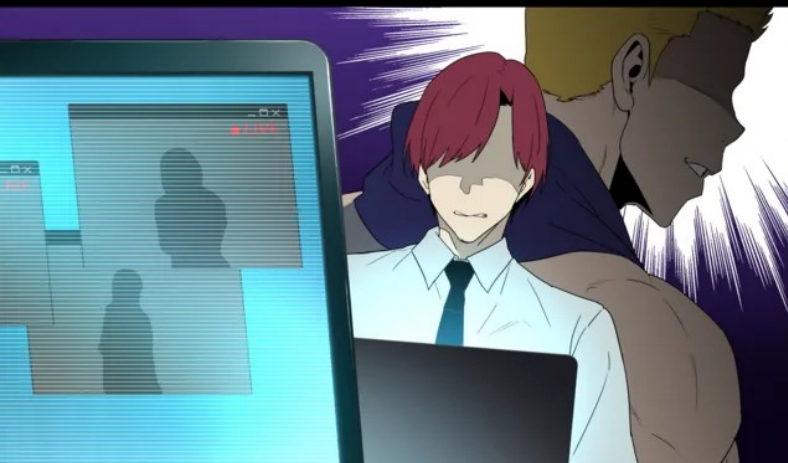


俺の声は全く届かず……
くれははイチャつきながら嬉しそうにドウゴとトイレに
向かっていく……
そこでやっと確信する…くれはドウゴに『教育』されていたと…

里は校長がくれはを気に入っていることを利用して
色仕掛けを仕掛けるの策も提案していたが
房中術の不得手のくれはでは難しいと自分が拒否し続けていた…

だが、結局情報を得られなかった自分達に業を煮やし
房中術が得意なドウゴをくれはの『教育係』にしたのだと……

しかし…ここまで変わるものなのか……
『おお♡やっべっ♡ドウゴ先輩のデカチンでいくっ！
マジでいくろううう!!!♡♡♡』
『ではデカチンいただきまます、淫遍『ドスケベタコ社の術』
んじゅほほほほほっ！♡♡』
『ああ♡すっげ……トイレでパコるのマジさいごー♡
おほっ♡便器になっただみだいで……んひい♡』
トイレから聞こえてくる、くれはの声は正しい日本語を
愛していた彼女の言葉とは思えないものばかりが聞こえてくる……
むしろ…節操のない変態の痴女のような言葉ばかり……
俺は……どう…すれば…



潜入任務4ヶ月

ドウゴから、ついに校長と直接接触したとの連絡があった……
手筈は全てドウゴがしたらしく、接触してる様子を隠しカメラで
撮影しているとのこと……あのトイレの日から
ほとんど、くれはには会えていない……

俺は……くれはの今の姿を…任務のために
変わってしまった彼女の姿を見れ……いや……俺は…



「校長せんせ〜♡ドスケベくのいち『くーちゃん』お買い上げ
ありがとうございます♡びょんびょんっ♡
大好物のデカチンポ持つてる校長せんせ〜は
これから『ご主人様』と呼ばせていただきま〜す♡
あなたの変態オナホウサギですっ♡び〜す♡び〜す♡」
「ぬふふ! そんなデカ乳デカ尻でよくクノイチなどと……くく♡
私の思った以上に下品なドスケベ変態に仕上がってきてるな♡
たまらんぞ、ホラ見てみる…
私のチンポも久々に反り返っているぞ♡」

「ああん♡嬉しいですう……うお♡でつけ……♡
カリ首えくくて…めっちゃ好みい…んお♡
見てるだけでマン汁、発射しちゃいますっ♡おっ♡おっ♡」
いくら調教されたとはいえ…コレが本当にくれは…なのか?
「うほお、マジで一目惚れするチンポお♡今日だけ買うと言わず
飼ってえいっしょう『くーちゃん』飼ってくださあい♡
スケベくのいちのエロマンコっ♡パコって♡パコってえ…
エロマン潮吹き術うほっ♡ほっ♡ほっ♡んほお♡
そのまま結婚♡ケッコン♡けっこんしてえ♡」
結婚……いくら演技でも……こんなところで
プロポーズなんて……心が苦しい……」

「くく…当然今日だけじゃないぞ…1ヶ月分買ってやったからの
今日からワシといっしょに暮らしてやりまくるんだぞ♡」
「おお♡嬉しいっ♡嬉しくて…嬉ションでるう♡
一緒にドスケベ忍術!♡噴乳のじゅつうう!!♡
ぬほおおおおお!!♡♡」
「ケッコンか…シテやってもいいが……
里の情報を全て吐いたらな…『火野 くれは』
「っ!!!?」
知られている? マズい、くれは…逃げないと……
「知っていたんです…ね…」
「当然だ……そのドスケベな体でごまかせる訳がないだろう、くく」
「そうですか……だったら……」



「情報は全てお渡ししますっ…ですからケツコンしましよお♡
火野くれは、敵組織の校長に……ご主人様に……里の、私の…
夫の情報もぜえ〜んぶ、お渡ししますっ♡むちゅうらう〜ん♡」
なっ……くれはっ!?!? そんな……
「ぬふふ、んちゅ♡ぶちゅ♡よく言った……それじゃあ
スケベしながらお前の事を教えるんだ…お前のスケベな情報を
んぶちゅうらう♡」

「はあい♡得意のタコロオゲレツフェラしながらあ…
んじゅほほ♡くれは…んぼっ♡
こんなスケベボディで…んじゅほ房中術が苦手とが…
んぼっ♡…エッチな男やセクハラ…ぶちゅほ♡
キライとガイッてましたけどお…んじゅほほ♡」
「うっ…たまらんな……くう…それで?」
「んぼっ♡本当はめっちゃ感じやすくて
ムツリスケベ隠すためにい…んじゅほ♡キライなフリ
してまひたあ…んじゅほほ♡粗チンとケツコンしたのもお
…んぼほ♡本性隠すタメでしたあ♡」
ウソ…ウソ……演技だよな……

「素晴らしいぞ、くれは…私も教えてやる…狙いは最初から
お前だったんだぞ? 調教師に私のデカチンだけじゃなく
匂い、ザーメン、体液でさえ一番の好みに
なるように調整させたんだ……お前が学園まで私を
追ってきた時、最高のクノイチだと思ったからな♡」
「んぼほお♡うれひい♡んぼっ!♡♡♡♡
くれはロマンコにひい♡んじゅほほ♡んぼっ♡んぼっ♡
こんやくザーメン♡ぶじゅるるる♡」
「うう、でるぞおお!!!♡」
「んじゅぶぶぶらう!!!」
ぶびっ!ぶしやあああ
「ふうふう……く……それじゃあ今度は里の情報だ……
言いながら孕ませセックスさせてやるからな♡」
「んごく…ごくつ…ぶはあ……はあ〜い♡
変態クノイチくれは、デカチンとバコる為に大事に守ってきた
里の情報、教えまあす♡」



5時間後……くれはは本当に機密を漏らし続け……そして…

「うおお！10発目だ……孕め！くれはあ♥」

「<おっ♡うお♡いくろう！♡…おお…♡」

「プリプリザーメン…エロ子宮はいつて……んほお♡」

「おお♡このザーメンたまねっ♡クセになるう…おおっ♡」

「ぐううう！！♡♡」

くれは…やはり縁起でもなくキミはコイツらにおかしくされて……

「んぢゅうう♡しゅきい♡しゅきい♡旦那ひやまあ♡」

「絶対、このチン汁ではらむっ♡ぜってえ孕んでやるう♡」

「んぶちゅ…うお♡そんなマンコしめたら…また出るぞっ！ぐう！♡」

「んひいいい…んひっ♡やつだあ…」

「淫遁、グロマン絞りの術う♡せいこお♡」

「まったく、折角ためこんできたザーメン雑に絞りおって」

「うひひ♡ごめんなひやあ〜い♡」



「だが、これからもっとオゲレツコスプレセックス大好きクノイチに性癖を捻じ曲げてやるからな♥…学園ではいつも通りに振るまい私の前だけではドスケベ下品な本性を晒すんだ…」

「早着替えで変態衣装になってな♥」

「ああん♡素敵ですう♡なりますう♡旦那さまあ♡」

「生徒や夫の前では変わらぬフリして……」

「校長の前で下品なラブオブオナホ書になっちゃいますう♡」

「<<<…楽しみだのお♡…ただ元旦那にはバレないようにな」

「人妻クノイチを孕ませるのが面白いんだからなあ……<おっ♡」

「了解てえす♡相チンザー薄の『元』夫には」

「絶対バレないようにしますからあ♡この指輪もアタタの前だけでしますからあ♡今日はもつとパコってえ〜ん♡」

「浮気くのいち書くれはのオマンコ」

「本当の旦那様ザーメンでいっぱいにしてくださあ〜い♡♡」

俺は…ショックの余り目の前が真っ暗になり……そのまま

朝になったが結局くれはは帰ってこなかった……

エピローグ

——その後……シノビの里から連絡が入り、女性奴隷の売買組織の頭を捕らえ壊滅したと報告があった……

どうやら、くれはとセックスに夢中になっている最中に自分も内情を漏らし続け…確証を得た里は他のシノビを派遣し捕らえたとのことだ……

ドウゴも裏組織と繋がっていた『調教師』だったらしい。彼も指名手配され今も里から逃げ続けているらしい…

その後…彼女…くれはと出会うと彼女は正気に戻り、涙ながらに私に謝罪を繰り返した……

私は幼い頃から彼女を知っている……仮に秘めた強い性欲があったとしても、また一緒にやりなおそうと話すと、いつもの笑顔で彼女は私に微笑み返してくれた……

事後処理のために彼女は潜入捜査のための教師を続け、私は違う仕事にあたるようになり…週末しか会えないことが多かったが私達は愛を育み、子宝にも恵まれた……

……しかし……

あの時の忌まわしい組織が壊滅せず水面下で活動を続け、ドウゴも……あの校長さえも…シノビの里に捕まっていない事実があることは今の炎斗は知らない……

それを知るのは……子どもが生まれた2年後とある任務中の……もう少し先の話……